令和８年度　第３回　曳馬小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和８年 10 月 29 日（木）　午後２時 00 分から午後３時 20 分
２　開催場所　　曳馬小学校　多目的ホール
３　出席委員　　飯尾忠弘、荒巻太枝子、川井啓介、中村佐知枝、戸田京子、鈴木香代、山田佳乃
４　欠席委員　　なし
５　オブザーバー　伊藤成明（曳馬協働センター）
６　学　　校　　藤井隆志、（校長）、鈴木謙誌（主幹教諭・CS 担当職員）、内堀邦子（ＣＳディレクター）
７　教育委員会　清水悠
８　傍聴者　　なし
９　会議録作成者　内堀邦子（ＣＳディレクター）
10　議長の選出　　司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、飯尾会長を推挙する発言があり、全員意義なくこれを承認した。
11　協議事項
（１）「令和８年度全国学力学習状況調査」について（主幹）
（２）「学校評価」について（校長）
（３）「学校支援ボランティア」について（主幹）

12　会議記録
司会から、委員総数７人のうち７人全員の出席しているため、会議が成立している旨の報告があった。
前回会議録確認 議長が前回第 2 回運営協議会会議録内容について全員異議なく確認した。

（１）「令和８年度 全国学力学習状況調査」について
別紙資料およびスライドに基づき、調査結果の分析と今後の対応について説明があった。（鈴木主幹）

- 国語の状況：知識・技能および文章全体の構成・展開を考える設問では全国平均と同等以上の成果が見られた。一方で、情報の関係性の理解や論述時の時間不足に課題が見られた。
- 算数の状況：基礎計算や単位量あたりの大きさなどの正答率は良好であったが、立式や応用問題に課題が残った。また、算数の学習を「楽しい」「よくわかる」と回答した児童の割合が全国平均を下回った。
- 生活・学習の質の状況：ICT を活用した協働学習の頻度が高く、曳馬小学校の児童の自己有用感（55.8%）は全国平均を大きく上回った。一方で、平日のメディア長時間視聴（3 時間以上が 48.5%）、睡眠・生活リズムの乱れ、家庭内での会話減少

の影響から心理的な安心感が課題として浮き彫りとなった。

- 今後の方向性：ICT や対話学習を活用した「わかるから楽しい授業」への改善、きめ細やかな指導による自己有用感の育成、家庭におけるメディア利用ルールの設定や日常会話の推奨、地域による登下校時の見守り強化を推進する。
  今後は学校・家庭・地域が温かいスクラムを組んで子どもの未来を照らせるようにする。

以下のような意見・質疑があった。

- 家庭でのコミュニケーションの大切さを理解した。学調のテスト結果が返ってきたが、家庭では具体的にどうしたらよいか（山田委員）
- テスト結果の復習には、正解のみを求めるのではなく「なぜそうなるのか」という思考のプロセスを問いかける復習を行って欲しい。今後の教育指導は、単体教授型から対話型・発展型授業へ移行していく。今後の工夫について説明。（校長）
- 児童の読解力や理解力を高めるためには家庭・地域での体験機会の確保が必要。算数を面白くする前に国語におけるワクワクする授業づくりを通じて子どもの理解力向上が必要。（戸田委員）
- 教育環境の変化により指導項目が肥大化し、成長途上の若手教員への研修内容が多様化しているため、支援のあり方に工夫が必要。（校長）
- 幼稚園・保育園教育と小学校教育が繋がっているため、同じ未来像を描ける。曳馬小学校は対話型学習が主体なので、対話の重要性が共有された。情報化社会の影響から、検索してすぐ答えにたどり着けるため、安易に答えを出したがる。すぐ検索するのではなく、予測を立てて検証する経験は大切。先生の温かい眼差しは確実に子供たちへ届いているため、自己有用感が高い。（荒巻委員）
- 放課後児童会で子供が宿題をする際、書き取りは面倒くさそうだが、タブレット学習は楽しそうだ。家庭や放課後児童会において、児童が学習時に間違えることを受容し、すぐに答えを教えずに間違いを経験させ、見守る姿勢が大切だと思う。（鈴木香代委員）

協議の結果、「令和８年度 全国学力学習状況調査」について全員異議なく承認した。

（２）「学校評価」について

本年度の学校評価の実施計画について説明があった。（校長）
対象：教職員、保護者、児童（3～6 年生）
評価項目：傾向を把握するため基本項目は継続しつつ、重大ないじめ案件の発生を踏まえ、集団への所属感やいじめ・不登校対策の検証を目的とした新規項目（教職員 No.15、保護者 No.15、児童 No.13）を追加した。

以下のような意見・質疑があった。

- 保護者がアンケートに回答する際、夏休みの自主学習など日頃の教育活動や家庭での取り組みを想起できるよう、案内方法を工夫してほしい。（山田委員）
- 校長が運動会直後に保護者の感想をまとめた。これにより、担当学年以外の情報を全教員が共有し、来年度の改善に向けた協議を進めることができた。教員間の指導力向上に向けた取り組みについて称賛があった。（飯尾会長）

協議の結果、「学校評価」について全員異議なく承認した。

（３）「学校ボランティア」について

来年度（令和 9 年度）に向けた学校支援ボランティアの運営方針について説明があった。（鈴木主幹）

- 活動状況：現在 56 名が登録されており、読み聞かせ、算数支援、歴史講座、環境整備、クラブ活動等で成果を上げている。
- 学校支援コーディネーターの導入：教員の業務負担軽減と円滑な連携調整のため、複数名体制による学校支援コーディネーターの配置・依頼を検討している。（校長）
- 運動会における後片付けの際、PTA や保護者が手伝ってくれてとても助かった。来年度以降もお願いしたいので、事前にアナウンスして協力体制を整えるようにしたい。（校長）

以下のような意見があった。

- 行事の片付けに関する事前案内があれば、保護者としても協力しやすい旨が確認された。

  地域の協力体制の強みを活かし、他校や行政へも取り組みを積極的に発信していくべきである。（飯尾会長）

協議の結果、「学校ボランティア」について全員異議なく承認した。

（４）その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和９年２月５日（金）午後２時 00 分から多目的ホールで開催する旨の報告があった。